



NPO法人カウホラ

個々の持つ可能性を広げて居場所をつくる

ご自身の経験から、地域や学校・企業と共に、地域連携型自立支援活動を行っている、NPO法人Kauhoraの上村さんにお話を伺いました。

Q.活動のきっかけを教えてください

最初は、子育て中のお母さんたちを応援したいという想いを込めて、新宮町にみんなが集えるイベントcafe『カウホラ』を立ち上げました。

その場所をオープンして、半年で長女が不登校になったことをきっかけに2019年に不登校自立支援活動をスタートさせました。

同じ悩みを抱える方の居場所になるように、立花高校の校長先生の講座、カウンセラーへの相談の機会の提供、手作りワークショップ、耕作放棄地を借りてのさつま芋の栽培をするようになりました。

Q.活動の内容を教えてください

現在は地域の方の協力のもと、新宮や塩浜にある耕作放棄地で多くの方が交流しながらさつま芋の栽培・収穫を行っています。

不登校の子どもたちに加え高校生や大学生、地域の方の安心できる居場所となっています。収穫したさつま芋

—— わじかつ/わじろで継続的に活動している団体・活動を紹介 ——

は子どもたちの考えも取り入れながら糸島の加工場で商品化し、地元のパン屋など飲食店で販売を行っています。

子どもたちはその過程で大人と関わりながら社会の仕組みを知り、自分の得意分野を活かして作られた商品がお客様のもとに届く事にやりがいを感じ、そのことが本人の向上心に繋がっているようです。

毎月1回、子どもの不登校に悩む保護者・支援者が同じ悩みを共有できる場所としてお話を開催しています。

Q.今後の展望を教えてください

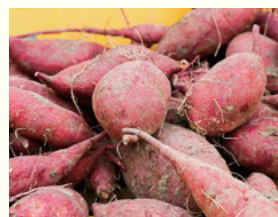
一昨年NPO法人にしたことで活動がよりオープンになり、地域や企業の方など協力していただく機会が増えました。

今後は、若者が安心して集える居場所から経済的自立を支えていける場所へと成長し、生きづらさを抱える人を長期的に包括できる団体として活動していきたいと考えています。

※ご協力いただける個人・団体・企業様からのお問合せお待ちしております。

※お話会、参加ご希望の方はお問合せ下さい。

【問合せ】ウェブサイトは、こちらから →



〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘1丁目22-27

☎092-608-8480 FAX:092-608-8485

【開館時間】午前9時から午後9時まで(多目的ホールは午後10時まで)

【休館日】毎月最終月曜日(祝日のときは翌日)、及び年末年始(12/28～1/3)



公式HP



facebook

より詳しい情報は、コミセンわじろ公式ホームページをご覧ください。

公式HP <https://wajiro.info>

facebookでも、コミセンわじろの日常を発信中！

facebook www.facebook.com/komisenwajiro



WAJICO

『残す景色』と『新しい景色』がかさなる情報誌 [ワジコ]

44

March.2024
Spring

文化の歴史をたどる銘品 products tell a story

Contents

わじろぐ 福岡工業大学 音とモノづくりの歴史資料館

わじかつ① 傾聴ボランティア笑みの会

わじかつ② 城東高等学校 ボランティア部

わじかつ③ NPO法人 Kauhora

記

福岡工業大学 音とモノづくりの歴史資料館

百年超え、ビンテージの銘品が醸し出す空気感

福岡工業大学の学内にある「音とモノづくりの歴史資料館」。これまで学内の学生を対象とした教育施設でしたが、昨年から本格的な一般公開が始まったばかりです。これから地域、一般の市民のみなさんに親しまれる同館の魅力をお伺いしました。モノづくりの学校ならではの、銘品の魅力に触れることができます。

大学本部棟1階のエントランスにある大学の歴史紹介コーナーを抜けガラスの扉をくぐると、そこからは別世界が広がります。奥の1200点を超える数を誇る展示室へ進むと、「音」のコーナーでは発明王エジソンによる蝋管式蓄音機、磁気録音機のルーツであるワイヤーレコーダー、オープンリールデッキ、トランジスタ以前のアンプに欠かせない圧巻の真空管コレクション、昭和6年発売のラジオ(表紙写真)、などが並んでいます。

「時計」コーナーは国内最初期の懐中時計、海軍用のクロックなども展示され、「カメラ」コーナーでは、今では珍しい二眼レフや映画のシーンで見かけるような大きな箱型のカメラなどを目にするすることができます。

この3つのコーナーでは、100年越えの名機、メモリア



ルな機種などもあり、好きな人だけでなく、初めて見る人にもわかりやすいように解説や当時の広告、マニュアルなどもあり、幅広い世代の人にも楽しめる工夫が凝らされています。

展示品はその多くが秀崎館長自身のコレクションで、何より**凄いのほとんどは機材が修繕され、現役で動くこと。当時のまま動くビンテージな機材を見ていると、モノづくりの奥深い魅力、歴史を感じることができます。**

「展示品を見て『昔これあった』とおっしゃる観覧者もいらっしゃいます。往年のみなさんには懐かしむ憩いの場であればと思うんですね。逆に、大学生や高校生からは『初めて見た』という感想も。ここは教育施設として、機械の動力、仕組みを学んでもらう場所でもあります。正に『温故知新』ですね。それとここは、懐かしさとアカデミックが同居する場所です。今回リニューアルした直後に、コロナ禍になり、閉館していましたが、やっと、見ていただける状況になりました。これからは地域のみなさまにも世代を超えて親しまれる施設になりたいと考えています。今後はテーマに沿った企画展示コーナーもつくっていきたくてと思っていますので、ぜひ遊びに来てください。」と熱い想いを語っていただきました。

【問合せ】092-606-0695
(福岡工業大学 音とモノづくりの歴史資料館)
開館時間や休館日の情報は、ウェブサイトで



活

傾聴ボランティア 笑みの会

相手に寄り添って受け止める心の拠り所

長きに渡り、地域の老人ホームなどを中心に傾聴のボランティア活動を続けている「傾聴ボランティア 笑みの会」を紹介します。結成について、コロナ禍での活動や今後について会長の豊福さんにお話を伺いました。

Q.活動のきっかけを教えてください

退職後、傾聴に興味があり、福祉関係の講座にいくつも参加しました。そこで東区の社会福祉協議会で開催された講座を受講した熱意ある方と、2012年に団体として立ち上げたのが「傾聴ボランティア 笑みの会」です。

Q.活動の内容を教えてください

東区にある、老人ホームなどを中心に、入居者の方のお話を傾聴するボランティアです。**傾聴は、お相手の方を受け入れて共感し、心から寄り添うことを意識して行っています。**ボランティア活動をした後に「ありがとう」や「また来てね」という声が聞けるのは嬉しく、やりがいに繋がっています。

コロナ禍以前は、10施設ほど訪問や個人宅の方のお話を伺うこともありましたが、コロナ禍になり、各施設での活動ができなくなってしまったため、電話で声だけの傾聴「笑顔の10分コール」を毎週1回、東区の社会福祉協議会の協力を得て行っています。ただお話ししたい、聞いてほ



しいという理由で、電話をかけて来られます。令和5年度に、今までの活動が「福岡市福祉まちづくり推進大会」に於いて、福岡市長より表彰をいただきました。また会議や研修で気持ちよく利用できるコミセンわじろは、活動の支えになっています。

Q.今後の展望を教えてください

現在メンバーが31名います。活躍の場をつくるためにも、今後はもっと訪問する施設数を増やしていきたいと考えています。もちろん個人宅にも希望があれば訪問いたします。ご希望の方は、社会福祉協議会までご連絡ください。

【問合せ】092-643-8922(福岡市東区社会福祉協議会)

活

城東高等学校 ボランティア部

若い力で地域のために

コミセンわじろでイベントを開催する際に、協力していただく「城東高等学校 ボランティア部」。活動の内容や活動に対する思いを顧問の森先生にお話を伺いました。



【問合せ】092-606-0797(福岡工業大学附属 城東高等学校)

Q.どんな活動ですか？

現在は3年生が引退し、部員は1・2年生の13名で活動しています。活動内容は、地域のイベントへのサポート、トルコやシリアの地震被災支援の街頭募金、NPO法人日本九援隊が行っている朝倉周辺の九州北部豪雨災害ボランティアなどに参加しています。街頭募金に関しては、人の多い博多駅前で行いました。

Q.この活動ならではの魅力は？

一番は、**人のためになる活動をすることで、社会貢献になり、やりがいを感じることができる**ところです。

他にも、大人の人の関わり方を学ぶことができます。ボランティアに入る前に、自分たちの立場の認識、相手への接し方や言葉遣いなどを伝えています。中には兼部している生徒もいて、土日や平日の夕方が良いなど活動時間の融通が効くことも魅力のようです。

Q.今後の活動を教えてください

今後は、地域との連携を進めていきたいと考えています。地域のニーズをどのように掴むかは今後の課題でもあります。個人宅からの活動依頼は難しいですができれば平日の夕方から参加できるボランティアがありましたら嬉しいです。ぜひ高校生の力を必要としている方がいたらご連絡ください。